

平成 23 年第 3 回加西市教育委員会会議録

1. 開会日時 平成 23 年 3 月 25 日 (金) 9 時 30 分
2. 閉会日時 同 日 12 時 00 分
3. 開催場所 加西市庁舎 5 階 (大) 会議室
4. 出席委員
委員 長 荒 木 貴 子
委員 竹 本 武 志
委員 渡 邊 隆 信
委員 市 場 かおり
教 育 長 吉 田 廣

5. 委員及び傍聴人を除き、会場に出席した者の氏名

教育次長	深 田 英 世
事務局参事	塩 見 善 則
学校教育課長	後 藤 倫 明
こども未来課長	前 田 晃
こども未来課主幹	後 藤 則 子
自己実現サポート課長	立 花 聡
青少年センター所長	柿 本 博 司
教育総務課長	深 田 秀 一
教育総務課主幹	中 倉 建 男
教育総務課課長補佐	千 石 剛

6. 付議事項

議案第 10 号 加西市奨学金支給規則について

議案第 11 号 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱について (小中特別支援学校分)

議案第 12 号 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱について (幼稚園分)

議案第 13 号 文化財の市指定について

7. 議題となった動議を提出した者の氏名

なし

8. 質問及び討議に内容

議案第 10 号 加西市奨学金支給規則について

学校教育課長より、議案第 10 号加西市奨学金支給規則の制定について委員会の議決を求めるもので、子ども手当での支給に伴い奨学金支給を廃止し、高校授業料無償化に移行したが、生活困窮家庭では、すでに授業料は減免されており、該当家庭の保護者、学校関係者等から奨学金の復活を強く望む声があり、平成 23 年度から支給を復活するものと提案説明する。

市場委員から、対象者をどれくらい見込んでいるのかと質問され、予算上は 46 名計上していると回答。また、月額 5 千円は受給者にどれくらいの効果があるのか、と質問され、以前は貸与であったが、支給となり、返還の必要がなくなった。額については十分ではないと回答する。さらに、性行が不良となったとき、給付の取消に該当するとあるが、どのような場合のことを想定すればよいか、との質問に、問題行動等をおこし、高等学校長が推薦できなくなったとき等が該当すると回答する。

渡邊委員より、予算枠を超えたときは支給者の選考等が行われるのか、との質問に、人数は一昨年の実績で計上しており、申請に基づいて支給すると回答し、原案どおり承認される。

議案第 11 号 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱について（小中特別支援学校分）

学校教育課長より、議案第 11 号 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱について、学校保健安全法第 23 条の規定により委員会の議決を求めるもので、任期は平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日までで、公立学校の 11 小学校、4 中学校、1 加西特別支援学校の掲載の学校医、学校歯科医、学校薬剤師を委嘱するものと提案説明する。

昨年と替わった人がいないことを確認し、原案どおり承認される。

議案第 12 号 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱について（幼稚園分）

こども未来課長より、議案第 12 号 加西市立幼稚園の学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱について、学校保健安全法第 23 条の規定により委員会の議決を求めるもので、任期は平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日までで、9 公立幼稚園での掲載の学校医、学校歯科医、学校薬剤師を委嘱するもので、昨年から替わった人は、賀茂幼稚園の学校歯科医である久枝健二氏、泉幼稚園の花田俊士氏と説明し、原案どおり承認される。

議案第 13 号 文化財の市指定について

自己実現サポート課長より、議案第 13 号 文化財保護に関する条例第 3 条第 1 項の規定により諮問を行った、大日如来坐像 1 軀（鎮岩町区長管理）、二天立像 2 軀（鎮岩町区長管理）、亀山古墳副葬品埋納施設出土遺物 一括（加西市所有）について、文化財審議委員会からの答申にもとづき市指定文化財に指定したいので、委員会の議決を求める提案説明し、原案どおり承認される。

9. 議決事項

議案第 10 号 加西市奨学金支給規則について

原案どおり可決

議案第 11 号 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱について（小中特別支援学校分）

原案どおり可決

議案第 12 号 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱について（幼稚園分）

原案どおり可決

議案第 13 号 文化財の市指定について

原案どおり可決

10. 報告事項

(1) 教育長の報告

教育長より、教育委員会ニュース「元気やねんかさい」の紙面から、教育予算の拡充、2 月に結成されたネット見守り隊の趣旨などを説明。また、3 月定例市議会の一般質問や質疑から、小中一貫教育と学校あり方検討委員会、通学路の安全対策、加西球場の硬式野球対応、休日・病後児・預かり・学童などの保育、木造校舎の耐震対策、学習指導要領の改訂、道徳性（豊かな心）を育む教育、宇仁小学校の耐震化と八王子神社の旧参道敷、中学校の給食、

総合教育センターの開設、文化財の保護と活用などについての答弁要旨を報告する。

竹本委員より、総合教育センターの開設に伴って青少年センターの名称が消滅することに対する危惧の意見があり、柿本所長より、新たな組織のなかで機能的に強化する方向で対応するものであると説明する。

(2) 教育次長の報告

教育次長より、学校あり方検討委員会（第5回）に関して、奈良市と品川区への視察を報告し、会議においては財政的試算、学校適正規模の考え方、市長への最終答申案の骨子などの議論が行われたことを報告する。

竹本委員より、学校の地震対策についての質問があり、教育次長から、学校の再配置とは別に学校の耐震化を進める方向で対応していくものであると説明。また、荒木委員長より、あり方検討委員会の今後について質問があり、市長の諮問から設置されたものであり、最終的には市長への答申としてまとめることになることと説明する。渡邊委員より、小中一貫教育と学校施設の統合との双方の整合性を図りながら答申案をまとめて欲しいこと、適正規模の議論における統合の基準については、複式学級等の基準の考え方や将来予測の時期設定など、慎重且つ明確に進めてほしいこと、などの意見がある。

今回の東日本大震災の報道もあり、教育委員の見解として、早期の耐震化を進めるようにとの強い要望がある。

(3) 教育総務課長の報告

教育総務課長より、教育委員会表彰候補者内定について、バレーボール2名 志方 葵さん、山本遥香さん、百人一首1名 山下 和真君、公民館活動2名 柏原英生氏、中村武彦氏。

情報公開条例について、市民より幼保の平成12年から19年の年度別収支決算、及び、平成20年度の教育施設耐震診断金抜き設計書の申請があったことを報告する。

(4) 学校教育課長の報告

学校教育課長より、平成22年度小中特別支援学校の卒業生数、小学校466名、中学校488名、特別支援学校11名。

平成23年度小中特別支援学校の入学予定者数、小学校は昨年度より69名少なく397名、中学校456名、特別支援学校19名。

東日本大震災の影響で、平成23年度の全国学力学習状況調査を延期し、9月以降の実施については検討中であることを報告する。

(5) 自己実現サポート課長の報告

自己実現サポート課長より、加西市視聴覚ライブラリーの利用本数が過去3年間で42本であり、設立当初の役割は果たしたと考える。

なお、活用できるものは総合教育センターに移管し、不要分は廃棄を考えていると報告する。

(6) こども未来課長の報告

こども未来課長より、本年の保育所入所児童数で新規入園児が346名、この数字の中には、認定白竜こども園が新設されたことにより、在園児も新入園児として計上している。

保育所への通所予定児童数は昨年度と比べて60名程度減少している。

幼稚園については昨年度と比べて、10名程度減少している。

学童保育園の入園予定者数は、富合と西在田学童保育園の新設を予定しており、昨年度の学童保育園の入園者数と比較すると50名程度増となっていることについての報告を行う。

11. 協議事項

(1) 報告事項の中から

○青少年センターだよりについて

市場委員より、インターネットの著作権問題について、子どもたちが著作権の侵害と知りながら罪の意識無くネットを使用しているが、フィルタリングの活用など保護者としての対応はどうすべきかとの質問があり、柿本所長より、フィルタリングについては、携帯機器を販売する際に業者が必要性を説明することになっていること、行政側もその依頼をしていること、フィルタリングによる性犯罪被害の確率は低くなっていること、他方、パソコンの場合は、学校で著作権の問題やネットでの掲示板の誹謗中傷の禁止を指導していることなどを説明する。また、保護者向けに、各校で研修会も考えていることを報告し、保護者側としても専門的な分野であるが時間を掛けて勉強することの必要性を説明する。

また、市場委員より、震災に係る生徒への指導に関して質問があり、吉田教育長や後藤課長より、教師として冷静な対応が必要であり一時の感情に任せるのは問題であるとの見解を説明する。

○卒業式について

竹本委員より、泉幼稚園や泉小中学校の卒業式に出向いた際の感想として、それぞれいい卒業式であり、泉中学校では、卒業式の日には親子で一緒に来て一緒に帰るような指導がなされており、学校と親子の信頼関係を築く取組としてよかったと意見を述べられる。

○クラスの人数について

荒木委員長より、小・中学校のクラスの人数編成について質問があり、教育次長が、国は1・2年生を35人、兵庫県は新学習システムの研究として1・2年生を35人、3・4年生を38人、また、中学校は40名と説明する。

○中学校のヤングアドバイザーについて

市場委員より、活動内容や成果について質問があり、学校教育課長より、各校に年間560～710時間を目安にヤングアドバイザーを配置していること、その多くが教育系の学生で、基礎的な学力をつけるため個に応じた指導を行っていること、不登校の生徒についても学力の保証を行うため指導を行っていること、年齢も近いことから質問をしやすいとの報告があること、などを説明する。

市場委員より、授業で理解できなかったことを聞きたくても、部活があるなどその機会を逃しているような声を聞いたので配慮をお願いすると要望される。

○小学校での陸上の指導について

市場委員より、小学校の保護者から駅伝大会等の練習を行うため、ランニングクラブをつくってもらえないかという強い要望があるが、現状としてはどうかという質問があり、学校教育課長より、小学校では駅伝大会へ向けて先生がメンバーを募り、放課後指導を行っているがクラブ形式でなく、大会も多いため継続的なものとなっていると説明する。

さらに、教育長より、継続的な取組となっても、工夫して対応したいと説明する。

12. 教育委員の提案・報告

なし

13. 今後の予定について

- ・第4回定例教育委員会 4月22日(金) 13:30～ 5階(大)会議室
(※13:00から、感謝状贈呈式及び新任管理職決意表明)
- ・第5回定例教育委員会 5月27日(金) 13:30～ 5階(大)会議室

この会議録は、事務局職員が作成したものであるが、真正であることを認めここに署名する。

平成23年3月25日

出席委員

(出席委員署名)